

「今を生きる」 (校長便り R2 NO. 1)

校長挨拶 (新入生説明会 (一入学式に代えて))

ただいま入学を許可いたしました 59 名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本校の教職員、在校生をあげて皆さんの入学を心より歓迎いたします。

本校は大正 2 年 (1913 年) の創立以来、今年度で 108 年目を迎える伝統校であり、数多くの卒業生が国内外、各方面で活躍されています。本校では、一昨年度から 2 月の特色選抜入試において「観光・グローバル類型」として全県を対象とした生徒募集を行っています。この類型は、観光資源に恵まれた朝来市にある生野高校から、地域の魅力を発信できる語学力やコミュニケーション能力、さらにはグローバルな視点を持った未来を切り拓くことができる生徒の育成を目指しています。また、3 月入試は「地域探究類型」として、新たに課題解決型の学びを採り入れ、これからの時代に必要な、解決策を提案し、発信できる生徒の育成を目指しています。一方、昨年度には、文部科学省から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」推進校の採択を受けました。コンソーシアムとよばれる周囲の支援を受けながら、全国で人口減に悩む地域にある高校のフロントランナーとして、「IKUNO モデル」の研究開発に意欲的に取り組んでいます。このように本校は、脈々と受け継がれる素晴らしい伝統を大切にしながらも、そこに安座することなく、新しい時代をしなやかに生き抜く人材を育成するために常に進化を遂げています。

この伝統ある生野高校に入学するにあたり、新入生の皆さんに一つお話をします。皆さんは、数年前に有名になった“コップの水理論”というのを知っていますか？これは著名な経営学者であるドラッカーが提唱したのですが、コップに水が半分入っているとき、「もう半分も入っている」と捉えるか、「まだ半分しか入っていない」と捉えるかで、状況は同じでも、その意味はまったく変わってくるというものです。これは視点を変えることの重要性を説いたものですが、それでは、視点を変えるのは誰でしょうか。それは、他ならぬ自分自身です。過去や他人は変えることができなくても、未来や自分自身は変えることができるのです。今後、苦しい時にこそしっかりと自己に向き合い、時には視点を変えることで、自らの力で未来を切り拓いてほしいと思います。

保護者の皆様、お子様の本校入学を心からお祝い申し上げます。本日から大切なお子様をお預かりいたします。生野高校は、生徒にとって「来てよかった」、保護者の皆様にとって「行かせてよかった」、そして、地域にとって「在ってよかった」、そのような学校づくりを目指します。そのために、教職員一同、全力を尽くして、お子様の教育に取り組んでまいり所存です。しかしながら、このことは保護者の皆様のご理解とご協力なくして成就するものではありません。どうか本校の教育活動にご理解を賜り、学校・家庭・地域が一体となって、お子様の成長を応援していただけますよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、新入生の皆さん、今、世界は新型コロナウイルス感染症という 100 年に一度の国難とよぶべき試練に直面し、不自由な状態を余儀なくされています。しかし、現実と正しく向き合い、時には視点を変え、皆が一つになって叡智を結集することで、必ずやこの戦いに勝つことができると信じています。皆さんにとって、生野高校での生活が貴重な青春の 3 年間、そして成長の場となることを祈念して挨拶いたします。

令和 2 年 4 月 8 日

兵庫県立生野高等学校長 福田 孝善

